

今週（9月9日から9月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、台風の影響で市場残が落ち込んだ9日以降、日を追うごとにレートが上昇する展開となった。日銀当座預金残高は概ね397兆円台で推移した。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.080～▲0.020%程度の出合い。週初9日は台風の影響から朝一の取引を見送る先が散見され、▲0.080%程度の限られたビッドに対してギブン中心の出合い。一方、体制が整った段階で調達に動いた先では、一巡後のオファーが薄い状況で取り上がる場面も一部に見られた。10日以降は9日に調達を見送ったビッドが復活。積み最終日を見据えた調達が加速し、日を追うごとにレートが上昇することとなった。12日にはレポレートの上昇を背景に、今まで様子見姿勢だった大手行も目線を切り上げて調達し、加重平均を引き上げることとなった。週末13日の積み最終営業日は大手行の動きは限定的だったものの、地銀業態等の最終調整のビッドから▲0.050～▲0.020%程度の出合いが見られていた。ターム物に関しては、ショートターム物を中心に▲0.050～▲0.040%近辺で引き合いが見られていた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、13日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,238億円（期落ち額2,219億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは投資家・業者のオファーニーズが共に厚く見られたことでレートを上げながらの推移となり、▲0.08～▲0.01%までのレンジでの出合いとなった。週初9日はT/N▲0.08%の出合いからレートを上げて▲0.05%までの出合い。10日T/Nは▲0.06～▲0.05%の出合い。11日には積み期間終盤に近づいたことでビッドサイドが薄くなり、T/Nはレートを一段と上げて▲0.05～▲0.02%までの出合いとなった。12日T/Nも同水準の▲0.05～▲0.01%程度の出合いとなった。13日T/Nは積み期が変わったことでレートは一旦低下したものの、短期発行を要因として業者のオファーニーズが厚く見られたことで再びレートを上げる展開となり、▲0.08%の出合いから▲0.06%程度までレート上げての推移となった。

SCについてはビッドが目立った銘柄は5y 136～140、10y 336～338、351～354、20y 169、30y 59～63、40y 11にビッドが見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、閑散なマーケットだった。9日の6M物の入札後は、全般的に在庫の積み上がりが見られる地合いとなっていた。3M物は、週半ばまでは▲0.180%近辺での出合いも見られたものの、世界的に債券相場が弱含む中、週末には入札が不調だったことを受けてレートが大幅に上昇した。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.290%から▲0.315%まで買い進まれる展開となったものの、平均落札利回▲0.2883%、按分落札利回▲0.2643%と、WI取引ほどの強さは見られず、テールも流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.290～▲0.275%での出合いが見られた。

11日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。オペ通告後に6M物が▲0.275～▲0.270%で出合う展開となる中、平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.002%と、在庫調整の売りからか小甘い結果となった。

13日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.145%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1431%、按分落札利回▲0.1236%と、前回債からレートが上昇し、テールも流れる結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、小売・ゴム製品・電気機器業態等で大型案件が実施されたものの、9月末の残高調整の動きからか、週間発行総額8,500億円程度に対して、週間償還総額は1兆3,500億円程度と大幅な償還超のマーケットとなった。償還超とはなったものの、市場残高は週を通して21兆円台半ばで推移しており、前年比でプラス2兆円程度と、高水準の残高を維持している。発行レートは期内物に関しては0%近辺での出合いが中心となっているが、投資家の運用ニーズの強い四半期を跨ぐ銘柄に関しては僅かなマイナスでの決着も見られている。

11日にはCP等買入オペが事前予定通りオファー額4,000億円で実施された。前回のオペから間もなく、発行が膨らんでいないことから更なるレート低下が期待されるなか、結果は平均落札レートが▲0.006%・按分レートが▲0.009%となった。予想通り平均・按分レートともに前回比（平均▲0.003%・按分▲0.006%）で低下したものの、高水準の市場残高を反映してか金利低下は小幅にとどまった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/9（月）	21,318.42	△ 0.260	106.95	△ 0.067	△ 0.085	3,977,100
9/10（火）	21,392.10	△ 0.230	107.43	△ 0.061	△ 0.050	3,973,300
9/11（水）	21,597.76	△ 0.210	107.64	△ 0.055	△ 0.052	3,973,600
9/12（木）	21,759.61	△ 0.215	108.03	△ 0.043	△ 0.041	3,955,900
9/13（金）	21,988.29	△ 0.160	108.20	△ 0.042	△ 0.074	3,959,900

来週（9月17日から9月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/16 (月)	敬老の日				
9/17 (火)	7月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				米FOMC(1日目) 8月の米鉱工業生産・設備稼働率
9/18 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 8月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 19,000億円 9/20発行	20Y 9,000億円 9/19発行		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 8月の米住宅着工件数 8月のユーロ圏消費者物価指数改定値 8月の英消費者物価指数
9/19 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 月例経済報告(内閣府)				英中銀MPC結果発表 8月の米中古住宅販売
9/20 (金)	8月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	TB3M 42,700億円 9/24発行			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/16 (月)	敬老の日								
9/17 (火)	1,000	6,100	7,100	全店共通 貸出増加支援 CP買入 国債補完	▲ 2,200 ▲ 4,800 ▲ 700 100	2,200 13,000 4,000	11,600	18,700	医療保険給付の諸費支払 TB3M発行▲42800償還42900 2Y償還11900 流動性供給発行▲6000 個人向け3Y・5Y・10Y▲4200 個人向け3・5Y償還600
9/18 (水)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
9/19 (木)	0	▲ 12,000	▲ 12,000				0	▲ 12,000	20Y発行▲9000
9/20 (金)	▲ 1,000	127,000	126,000	被災地支援	▲ 800		▲ 800	125,200	国債の大量償還・利払い TB1Y発行▲19000償還17700 5Y償還37600 10Y償還54400 20Y償還7200 変動15Y償還5500 エネルギー対策借入▲7000期日7000
週 間 合 計	0	120,100	120,100	—	▲ 8,400	19,200	10,800	130,900	

9/17は日銀予想、9/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新積み期に入り、前積み期間終盤の過熱感が剥落すると予想される。日銀金融政策決定会合を控えており、オファービッド共に動向が注目される。レボ市場は、19日に金融政策決定会合、20日に国債の大量償還があることから、ボラタイルなレート推移が予想される。短国市場は、18日に1Y物、20日に3M物の入札が実施予定となっている。国内外の金融政策決定会合が控える中、政策決定がレート水準にどう影響するか、市場動向が注目される。CP市場は、月末に向けて徐々に期末越えの発行が中心になると見られる。投資家・ディーラーの玉確保のニーズは強く、期越物のレート水準が注目される。

主要なイベントとしては、国内では18～19日に日銀金融政策決定会合、20日に8月の全国CPI、海外では17～18日にFOMC、18日に8月の英国CPI、19日にMPC結果発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入